山本すすむ　後援会だより

風の会 通信

塩竈市議会議員
山本すすむ
塩竈市清水沢4丁目7－8

2017年6月1日発行
〈第4号〉

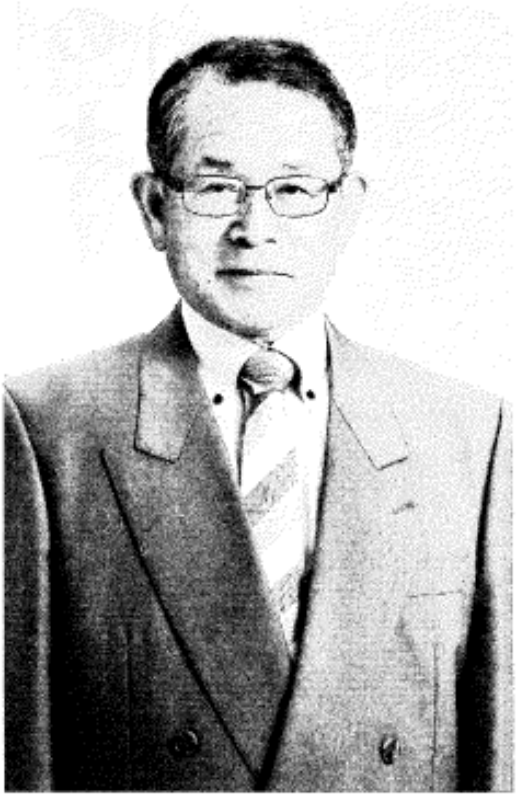
「風の会」の由来は、議会に新たな風を巻き起こし、新風を注ぐ、そんな想いからであります。

間もなく2年が！感謝申し上げます！

ごあいさつ

平成27年8月30日、塩竈市議会議員選挙において皆様方の多大なるご支援により当選を果たすことができました。ここに改めて心より御礼申し上げますと共に、皆様の叱咤激励により、議会活動も早1年10ケ月を迎えることができました。

「我以外皆我師」（吉川英治）を信条に、常に現場主義に徹し、声を聴き、実際を見て体で感じ、今、自分は何をしなければならないかを考え、次の行動の指針としております。



「日に新たに、日々に新たなり」に学び、常に「今」を肝に銘じております。

「町づくり」「水産業」「人口減少」「高齢社会」「少子化」「震災復興」等々、いま塩竈市は歴史的転換点に立っていると実感しております。私は、常々「町づくりは歴史に習うべき」と主張してきました。そして町づくりは、人づくりでもあります。塩竈の文化を次代に繋ぐためにも、我々は真剣に議論し、取り組んでいく責任があるのではないでしょうか。

生き方は不器用でありますが、先人から受け継いだ教えを大切に、これからも愚直に活動して参ります。今後共、温かく、かつ厳しいご指導を賜りますようお願い申し上げます。

施政方針・一般質問より

平成27年9月定例会

Q1 情報の公開について、マリネットは何故突然中止にしたのか。

A1 事業者の機材不足・人員配置等で放送できなかった。

Q2 防潮堤の高さについて、何故地元の人々の声を聞かないのか。

A2 尚、理解していただくよう説明していく。

平成28年2月定例会

Q1 新しい魚市場をどのように運営していくのか。

A1 魚体選別機等を導入して、漁船誘致に努めていく。

Q2 海岸通再開発の具体的内容はどうなっているのか。

A2 市として公共駐車場と、子育て支援施設を検討している。

平成28年9月定例会

Q1 避難デッキ建設は、どのような議論で決まったのか。

A1 津波発生時、いち早く避難するために必要である。庁議で審議し決定した。

平成29年2月定例会

Q1 市立病院の改革はどうするのか。

A1 厳しい環境を乗り越え経営継続を可能なものとなるよう取り組む。

Q2 塩竈独自の小中一貫教育とは。

A2 学力向上プランを核に幼保連携事業、交流活動を推進する。

〝3つのキーワード〟で市政に問う！

解らない

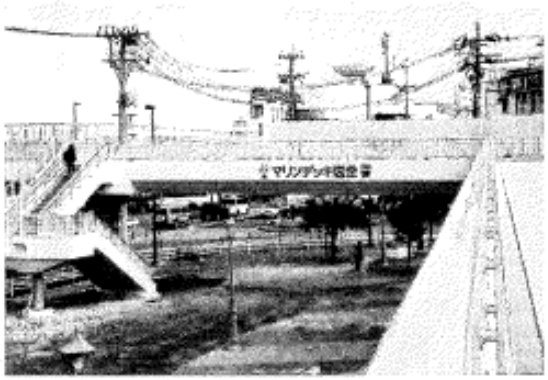
政策決定はどのように
津波避難デッキ
海岸通地区再開発

復興計画に基づき復旧・復興に取組んではいるものの、「点」としては見えていても、塩竈の町全体、つまり「面」としての将来が見えてこない。既に5年が経とうとしている今、市民に解りやすく、その進捗状況を知らしめていくべきである、と指摘しました。

「政策決定はどのように？」

現在復興事業が進められておりますが、どのような議論がどこで行われ、最終的に政策として決定されるのか問いただしました。特に、この程完成した避難デッキは、「誰歩ぐのや？」「走って逃げればいいんでないの？」「花火の時の観覧場所か？」など、皆様異口同音におっしゃいます。

12億円のデッキ（マリンデッキ）、施設（ハード）は町の一部として、現在・未来どのように生かされて行くのかを、考えなければなりません。復興予算ありきの感がしてなりません。



◀マリンデッキ塩釜

「海岸通地区再開発事業の現状と今後の取り組みについて」

塩竈市の町の顔であり、歴史でもある海岸通地区は、我々の現役時代も「ヤミ市」として親しまれておりました。「海岸通再開発」は、既に昨年2月に事業認可を受けてから1年9ケ月、未だ着工の槌音が聞こえてきません！

市は「再開発組合」を当事者として、その遅延理由を種々述べておりますが、「町づくりは行政・当事者（組合）、そして市民の連携」でなし得るものと思います。

見えない

議会中継の放送中止
新魚市場運営
市立病院改革プラン

今年の2月定例議会でのケーブルテレビ放映及びFM放送が何の説明もなく突然中止となりました。何故？多くの市民の方々が疑問に思いました。

情報公開では塩竈市は県内でもトップクラスに位置し、特に議会中継は昭和50年代から続いておりました。それが突然中止です。

今、塩竈市でどの様な施策で町づくりが行われているのか、皆様が選んだ議員が、どの様な議員活動をしているのかは大きな関心事であり、その媒体が先のケーブルテレビ中継でした。

当局の答弁では、「新たなシステムを構築するため」とのことですが、現在の中継を中止する理由とはなりません。現在ケーブルテレビのみ本会議に限って再開されましたが、今後委員会の中継、そしてFM放送の再開を望みます。

「新魚市場の今後の運営のあり方について」

総額140億円を投じて建設が進められている新魚市場がいよいよ来年の秋には完成する予定です。立派です。

◀新魚市場

観光もコンセプトの一つに加えた新たな時代に対応する魚市場と言われております。

しかし、水産資源保護（クロマグロ等漁獲規制）を視野に入れる等、新たな施設を活かすためのノウハウが見えません。

魚市場は塩竈市の顔でもあります。多くの市民に親しまれ、観光客が訪れる施設とするための真剣な議論が求められております。

「塩竈市立病院新改革プラン」

新改革プランが公表されました。「地域包括ケアシステムの構築に向け、塩竈圏域唯一の公立病院としての役割を基本として、今後とも積極的に病院経営に取り組む。」と結論づけております。

地域的使命は理解するものの、全国自治体病院の9割が赤字経営の中で、高齢化が進み、療養型の需要が増える医療環境の中では、厳しい経営が強いられるのではないかと、将来の具体的な経営改善策について見解を求めました。

届かない

浦戸島民からの防潮堤高さ要望

浦戸野々島に現在計画されている「防潮堤高3・3Mを下げて欲しい！」との悲痛な声が宮城県に届いていません。

この高さでは「海が見えない。」海との生業で暮らしてきた、そして暮らしている島の人々にとって、海が見えない生活はコミュニティーそのものを破壊することとなるため、反対を訴えております。

◀野々島防潮堤

確かに事業主体は宮城県であり、その高さも国の示す基準に基づくもので、「島の人々の命と財産を守る」という大義名分の下に計画通り進める方向にあります。

しかし、国の基準自体が「命を守る」とは、明言しておらず、まず「逃げる」ことを提示しております。島の皆さんも、「俺らの命は俺らが守る。これまでもそうしてきたから」と、主張しております。「地元塩竈市として、是非皆さんの声を宮城県に届けていただきたい！」、と強く訴えました。

その後の動き

100円バスの運行拡大

議会での発言機会あるたびに拡大を要望してきました。

結果、NEWしおなびの運行拡大が実現しました（一部北部地区未実施についても、3月定例会で要望）。

▶NEWしおなびバス

野々島防潮堤高さ要望通じる

「3・3Mの高さでは海も見えない。自分達の命は自分たちが守る。」との島民の方々の強い決意で宮城県に要望してきました。

一年の反対運動の結果2・1M要望通りの高さに下げられました。

非常勤職員（非正規）拡大に歯止め

全職員数に占める割合が40％を超えました。行財政改革の必要性は認めるものの、市民に対する責任ある行政運営が懸念されています。

今後とも行政運営の基本である、最小の経費で最大の効果が得られるような施政運営が実践されるよう提言してまいります。

マリネット放送再開

一昨年6月突然放送中止になった同放送。楽しみにしていた市民の皆様からは「何が何だかわからない？」との声が寄せられました。

粘り強く要請した結果、昨年の12月定例会から再開され、同時にインターネット中継も開始されました。

【塩竈市HP議会・議員名等で検索】

▶定例会より（施政方針に対する質問）

建設汚染残土処理工場の建設が中止

水産のまち塩竈に相応しくない施設建設について、1万人を超える反対署名が集りました。結果進出企業が撤回を表明しました。

活動記

「学力日本一の村」を視察

文部科学省の全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）において、塩竈市の結果は、2012年度以来、残念ながら小中とも全国、宮城県平均を0.6ポイントから最大で5.2ポイント下回っております。

全国学力テストの2007年度開始以来、全国最上位の秋田県の中でも東成瀬村は、常にトップの成績を維持してきています。東成瀬村で実際の授業を視察し、日本一の学力の秘密を学んできました。

子ども同士、大人同士、子どもと大人、それぞれがお互いから学ぶ「共に学び合う教育」これが教育の基本だそうです。「自ら考える」「理解する」「話す」という一連の思考プロセスを小学生の時から学んできていることが、好結果の原因であることを実感しました。早速２月定例議会におきまして施政方針に対する質問として「教育問題」を取り上げ、具体的な学力向上策について、市の考えを問いました。　（詳しくは「議会だより平成29年２月号」をご参照願います。）

街頭行動に参加

「戦争で平和は実現できない」。国は集団的自衛権の行使を認める、いわゆる戦争法案を強行採決し、そして政府は憲法改正で自衛隊の武力行使を容認する憲法改正を2020年までに行うことを表明しております。

尖閣諸島、竹島等における主権侵害から、国家・国民を守るという大義が、その理論的根拠とされておりますが、如何なる大義の存在を主張しても、武力を行使し、人を殺し合う戦争であることに何ら変わりはありません。

既に他界した私の父は、二度も満州の戦地に徴用されました。戦争に関するニュースが流れる度に、呟いていたことは、「戦争は駄目だ！殺し合いだ！」。誰に話しているかは解りませんでしたが、ただテレビに向かって怒っていたことだけは、今でも鮮明に記憶しております。

（平成27年３月　反戦街頭行動にて）

編集後記

平成26年7月、某先輩に心の内を打ち明けました。「今の議会の混乱を見て、俺、市議会議員選挙に出なければと思っているんです！」。

勿論、組織も地縁・血縁も無い私が無謀とも思える決断でした。背景には、市役所での経験（特に議会事務局での経験）から無用な混乱は市民不在のものであり、市政の停滞は許されないと痛感したことが、大きな理由でありました。

更に、早期退職後再就職した民間企業は、数字が全ての鬼気迫る現場で、市役所では到底経験できないものでした。特に東日本大震災により、仙台港にあった中核拠点施設の全てが壊滅的な被害を受けた中で、その会社再建という貴重な体験を得て、議会改革に取り組まなければ、との思いが強まりました。

後援会は、市役所の退職者会を基軸として、水産業界、福祉団体、婦人会関係、地元町内会の有志の方々そしてこれまで親しくお付き合い頂いた友人の皆様の大きなお力の結果と、改めて感謝申し上げる次第であります。これからも初心を忘れず、皆様の声や思いを市政へと届けられるよう、頑張ってまいります。